



きょうりゅう はなし
恐竜たちの お話

セツ かい
サッズと 石けんと 貝がらと



きょう 今日^{きょう}は トリスタンの たんじうび^{じょうび}。
おとう^{とう}さんと おかあ^{かあ}さんから、
ポップアップテントの プレゼント^{はや}を
もらいました。トリスタンは、早く^{つか}
テントを 使いたくて たまりません。
ジェイクおじいちゃんは トリスタんに、
とも^{とも}友だちの トロイと シャンタルと
デリックを さそって、にわ^{にわ}庭で
キャンプしたら いいよ、と い^いって
くれました。トリスタンは、とても
こうふんしました。

まもなく すると、トリスタンの
とも^{とも}友だちが、よぶん^{よぶん}余分の テントと、じぶん^{じぶん}自分たちの
ねぶくろ^{ねぶくろ}寝袋と かいちゅうでんとう^{かいちゅうでんとう}懐中電灯と おやつと ほん^{ほん}本を 持ち^もて、
やって来^きました。ジェイクおじいちゃんに
てつだ^{てつだ}手伝って もらって、みんな きょうりよく^{きょうりよく}協力して
テントを 張り^はました。

トロイは、シャンタルが 持ち^もてきた
おお^{おお}大きな かいちゅうでんとう^{かいちゅうでんとう}懐中電灯を 見て、自分^みのより
ずっと いいなあと おも^{おも}いました。それで、
どのくらい 明る^{あか}いのか、見て みたく
なりました。



トロイは ^{なん ど} 何度か ^い スイッチを 入れて ましたが、
まだ ^{そと} 外が ^{あか} 明るいので、どのくらい 明るいのか、
よく ^わ 分かりません。

(ふう〜ん……。そうだ！ ^{ねぶくろ} 寝袋の ^{なか} 中なら、
^{くら} 暗いかも。) と、トロイは ^{おも} 思いました。

トロイは ^{ねぶくろ} シャンタルの 寝袋の ^{なか} 中にもぐりこんで、
^{かいちゅうでんとう} 懐中電灯の ^{なん ど} スイッチを ^け 何度も つけたり 消したり
しました。

シャンタルは ^{そと} 外で ^{あそ} 遊んで いましたが、テントの
そばに 来ると、^{ねぶくろ} 寝袋の ^{なか} 中で ^あ 明かりが ついたり
^き 消えたり しています。「わたしの 寝袋の 中で、
^{なに} 何 してるの？ わたしの ^{かいちゅうでんとう} 懐中電灯を ^{つか} 使って いって、
だれが ^い 言ったのよ？」 シャンタルは おこって
トロイに 言いました。

「ただ、^{かいちゅうでんとう} シャンタルの 懐中電灯が どのくらい
^{あか} 明るいのか、^み 見たかった だけだよ。」と、トロイが
^{こた} 答えました。

シャンタルが おこって ^{かいちゅうでんとう} 懐中電灯を つかむと、
^あ 明かりは ^き 消えかかって いました。^{でん ち} 電池が なくなって
しまったのです！

シャンタルは わっと ^な 泣き出して、トロイに
^い 言いました。「今度は ^{こん ど} トロイの ^{でん ち} 電池を ^か 貸してよ。」





シャンタルはトロイの^{かいちゅうでんとう}懐中電灯に^て手をのばしましたが、トロイはさっと懐中電灯をつかんで、にげて^い行ってしまいました。

シャンタルはジェイクおじいちゃんの^{ところ}所へ行って、トロイの^{はな}したことを話しました。

「電池^{でんち}がなくなってしまって、かわいそうに。
トロイがしたことも、よくないね。だけど、
問題^{もんだい}を解決^{かいけつ}するのに、おこるよりもいい方法^{ほうほう}があるよ。正しい方法^{ただ}で問題を解決^{たいせつ}するのは大切なことだからね。」と、ジェイクおじいちゃんが言いました。

「サッズとディクシーのお話^{はなし}をしてあげよう。
彼ら^{かれ}にも、にたようなことが起^おこって、どうなったかっていうお話だよ。」



ディクシーは、絵^えをかくのが大好きです。特に、花や
ちょうちょは^{あか}明るくてカラフルなので、お気に入りです！
ディクシーは、紙^{かみ}だけではなく、大きな葉^{おおは}っぱや木の皮^{きかわ}、
オリジナルのスタンドグラスを作るためのとうめいな
プラスチック版^{ばん}にも、絵をかきました。

ナギン先生^{せんせい}はみんなに、自分^{じぶん}たちが作^{つく}った物^{もの}を
教室^{きょうしつ}に持^もって来るようにと^い言いました。ディクシーは、
お気に入りの絵^えを持^もってきました。サッズは、カラフルな
石けん^{せっけん}を持^もってきました。ウェスリーは、マッチ棒^{ぼう}で
作^{つく}った家^{いえ}を持^もってきました。子ども^こたちは順番^{じゅんばん}に、
自分^{さくひん}の作品^{はっぴょう}を^は発表^{はっぴょう}しました。



ディクシーは 下校する 時、サツズの 石けんを見て、
急に ある ことを 思いつきました。(石けんに 絵を かいて、
お母さんに あげられるわ！)

だれも 見ていない 時に、ディクシーは サツズに
だまって 石けんを 1個 取ってしまいました。



「ディクシー、わたしの 石けんを取ったのね！」
次の日、ディクシーが 石けんに 絵を かいているのを見て、
サツズが 大声を 上げました。

ディクシーは、サツズが 遊びに 来た ことに 気付かなかった
ので、サツズが そばに 立っているのを見て、びっくりしました。
それで、あわてて 石けんを かくそうとしました。

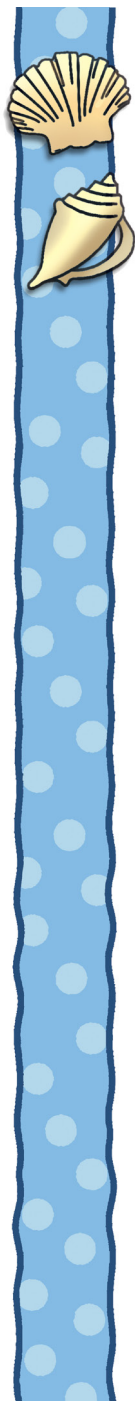
「石けんを取ったのは、ディクシーだったのね！」
それに、石けんが めちゃくちゃだわ。」

「めちゃくちゃになんか、
して ないわ。きれいな もようを
かいてるだけよ。」

「返して ちょうだい。」と、
サツズ。

ディクシーは 首を 横に ふりました。
「一生けん命に きれいな 絵を かいたのよ。
お母さんに プレゼントするの。」





サッズはおこってしまいました。ふと、ディクシーが
集めた貝がらが入っているふくろがあるのに気づき、
ディクシーが見ていないすきに、それをさっと取って、
ディクシーの巣穴を出ました。

(貝がらをかくしておかないと。) サッズは貝がらの
入ったふくろをポケットにつっこみ、急いで家に
帰りました。

巣穴に帰ると、サッズは自分の部屋に行き、
ディクシーの貝がらをどこにかくそうかと考えていました。
すると、急に母さんの声がしたので、あわててふくろを
ベッドカバーの下にかくしましたが、貝がらのせいで
ベッドカバーがもり上がっています。お母さんが部屋に
入って来る直前に、サッズはその上にすわってしまいました。

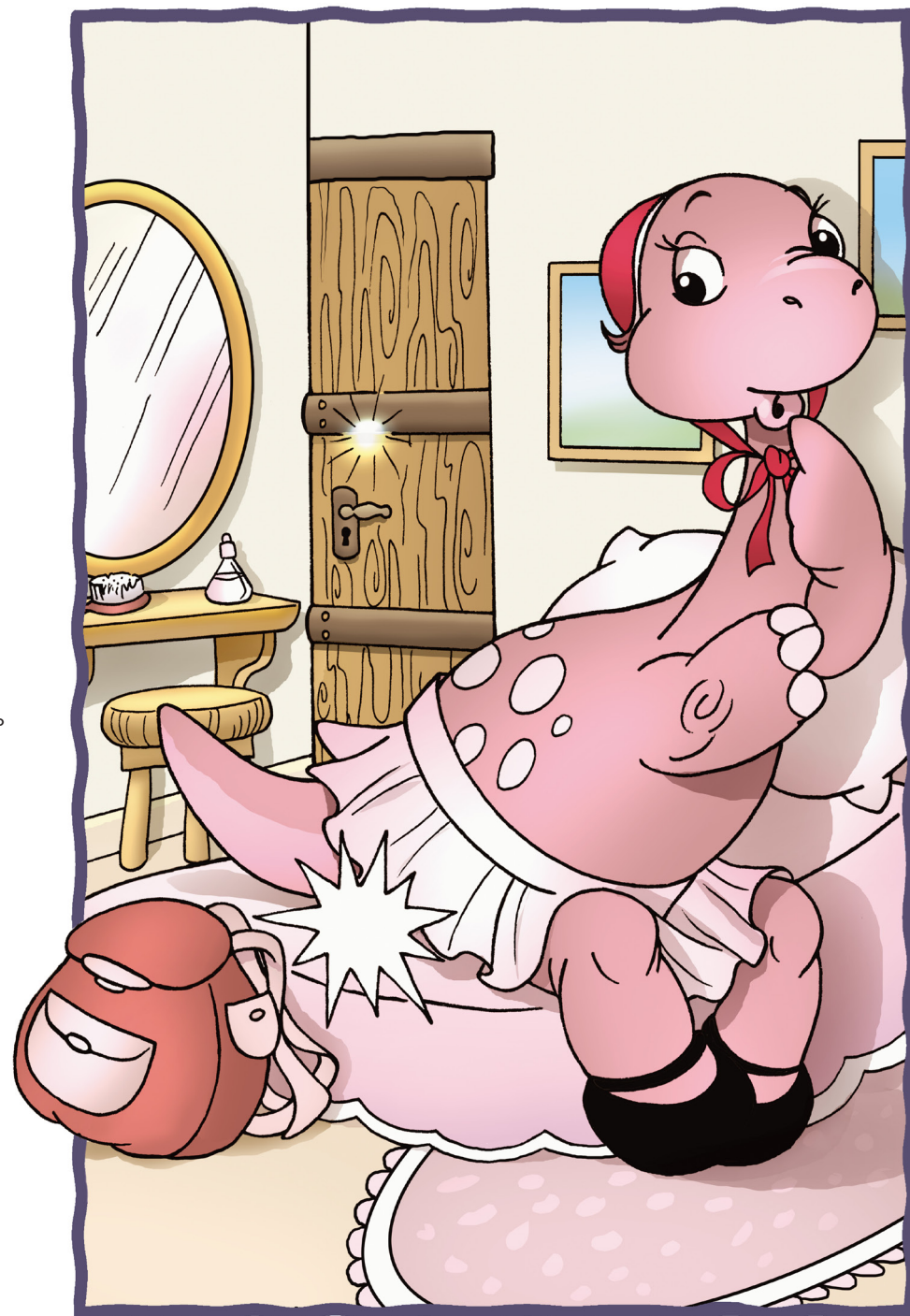
そのしゅんかん、サッズは、自分がひどいまちがいを
したことに気が付きました。

バリバリ！ バリバリ！

「クリスピンを見かけなかった？」と、お母さんが
たずねました。

サッズは、すぐに首を横にふりました。

「じゃあ、もし見かけたら、すぐに宿題を終わらせる
ようにって、言ってね。」





お母さんが 部屋を出て行くと、サッズは そっと、ふくろの中を見てみました。いくつかの 貝がらが われています。
(大変だわ! どうしよう? きっと、すごく おこるわね。
でも……。ディクシーだって、だまってわたしの 石けんを取ったのよ。貝がらが いくつか われたって、当然の むくいだわ。)
サッズは、そんな ことを 考えていました。

何時間か たって、サッズは、貝がらの ことを 考えれば考えるほど、すまない 気持ちになりました。(たぶん、ディクシーに 話した ほうが いいのかも。) そう
思いましたが、やっぱり だまっている ことにしました。

その夜、お母さんが サッズを ねかしつけるために 部屋に 来ました。サッズは とても 悲しい 気持ちでした。

「一体 どうしたの、サッズ?」と、お母さんが たずねました。

サッズは、ディクシーの 貝がらの 話を すると、すすり泣きました。「わたし、
どうしたら いいか、わからないの。」

「正直に 言うに こした ことはないわ。
きっと、ディクシーは 悲しむと 思うけれど、
話す ほうが いいわよ。ディクシーが あなたの 石けんを取った ことでおこっていたからって、
ディクシーの 貝がらを取るべきじゃ なかった
ものね。おかげで、もっと ひどい ことになって
しまったんですもの。」と、お母さんが 言いました。





サズは お母さん^{かあ}に ハグして 言^いいました。「明日^{あした}、
ディクシーに 貝^{かい}がらの こと、ちゃんと 話^{はな}すわ。」



「ディクシー、昨日^{きのう} わたし、あなたが 見^みていない 時^{とき}に、
あなたの 貝^{かい}がらを 持^もってきて しまったの。」と、サズが
話^{はな}し始めました。「あなたが わたしの 石^{せつ}けんを 取^とった こと
で おこって、あなたを 同じ 目^めに あわせよう と思^{おも}ったのよ。」

「わたしの 貝^{かい}がらを 取^とったの？」 ディクシーは おこって、
サズが 差^さし出^だした 貝^{かい}がらの ふくろを つかみました。

「ええ。それで、うっかり いくつかの 貝^{かい}がらを わって
しまったの。本^{ほん}当^{とう}に ごめんなさい。」

ディクシーは、ふくろの 中^{なか}で いくつかの 貝^{かい}がらが われて
いるのを見て、泣^なき始めました。「サズったら。わたしの
お^お気^きに入^いりの も われてるわ。」

「本^{ほん}当^{とう}に ごめんね。」と、サズ。

ディクシーは ちょっ^{かん}と 考^いえて 言^いいました。「あやまら
なくちゃ いけないのは、わたしの ほうだわ。石^{せつ}けんを
取^とる 前^{まえ}に、ちゃんと あなたに たずねるべきだったもの。
わたし、自^じ分^{ぶん}の したい ことしか 考^{かん}えて いなかったわ。」

「いいのよ。石^{せつ}けんは あげるわ。もし ほしかったら、
もう1個^{いっこ} あげて も いいわよ。」と、サズが 言^いいました。





「本当に^{ほんとう} ありがとう。ねえ、わたしたち^{わたくし}の^{かい}貝^{つが}がら^{がら}を^{つか}使って、
何か^{なに} しましょう。箱^{はこ}の^{まわ}周^{まわ}りに^{つか}わたしたち^{わたくし}の^{かい}貝^{つが}がら^{がら}を^{つか}はり付けて、
かざり^{かざり}付けるの。それを、わたしたち^{わたくし}の^{ゆうじょう}友^{ゆうじょう}情^{じょう}ボ^ボックスに
するのよ。」

二人^{ふたり}は^あハグ^あし合^あって、うれし^{うれし}そうに、友^{ゆうじょう}情^{じょう}ボ^ボックスを
作る^{つく}のに^{ひつよう}必要^{ひつよう}な^{あつ}もの^いを^い集^{あつ}め^いに^い行^いきました。



「シャンタルの^{でんち}電池^{でんち}を^{むだ}むだ^にに^しちや^{って}て、ごめんね。
良^よかったら、ぼく^{ぼく}の^{かいちゅうでんとう}懐^{かいちゅうでんとう}中^{ちゅう}電^{でん}灯^{とう}を^{つか}使^{つか}って^{いい}い^いよ。」と、
トロイ^{トロイ}が^いシャンタル^いに^い言^いいました。

「わたしも、おこ^こったり^{たり}して、ごめんね。」と、シャンタル。

すると、ジェイクおじいちゃん^いが^い言^いいました。
「さ^さっき^きより^も、ず^ずっと^とい^いい^いじ^じゃ^あない^いか。と^ところ^ろで、
シャンタル^{つか}が^{つか}使^{つか}える^{でんち}よ^ぶん^なな^{でんち}電池^{でんち}が^ある^おと^も思^{おも}う^よ。」

「本当^{ほんとう}？」

「あ^あ。懐^{かいちゅうでんとう}中^{ちゅう}電^{でん}灯^{とう}は、必要^{ひつよう}な^{とき}時^{とき}だ^{だけ}使^{つか}う^{よう}に^ね。
そ^そう^すれ^ば、電池^{でんち}が^もっ^と長^{なが}持^もち^{する}から^ね。」

「ジェイクおじいちゃん、問^{もん}題^{だい}を^{かいけつ}解^{かい}決^{けつ}する^{のを}を^{たす}助^{たす}けて^{くれ}て、
あ^あり^がと^う。」と、シャンタル。

「お話^{はなし}を^{してくれ}て、あ^あり^がと^う。」と、トロイ^いも^い言^いいました。



きょうくん じぶん
教訓^{きょうくん}: 自^じ分^{ぶん}の^がす^るこ^とが^が他^{ほか}の^{ひと}人^{ひと}を^をど^んな^き気^も持^もち^にに
さ^させる^か、考^{かんが}え^てみ^{よう}。そ^そし^て、自^じ分^{ぶん}に^にし^てほ^しい^いと
思^{おも}う^{よう}に、周^{まわ}りの^{よろこ}人^{ひと}た^ちに^にも^もし^てあ^げよう。
周^{まわ}りの^{よろこ}人^{ひと}た^ちに^に喜^{よろこ}ん^でも^もら^える^と、
自^じ分^{ぶん}自^じ身^{しん}も、幸^{しあ}せ^になる^{もの}な^{んだ}。